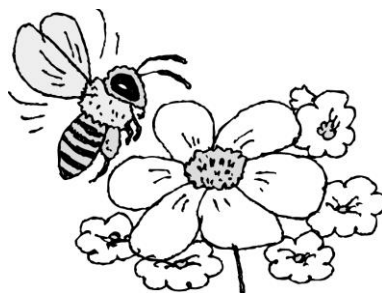


# 父親から 「ありがとう」



え・小島サエキチ

## 都

内で中学校の校長をしていてたY氏は、A中学校への赴任が決まりました。

その学校は荒れていて、まともに授業ができる雰囲気ではありませんでした。不登校の生徒にも、教師がきちんと対応していない状況でした。

山積する問題に、へ大変な学校に赴任してしまったと思つたY氏。実は、家庭の中にも問題が生じていたのです。

家族は五人、妻とはほとんど会話がなく、年頃の子供たち三人とも、親子の会話らしい会話はありませんでした。

ある日、倫理を学んでいる知人とぼつたり出会い、講演会に誘われました。テーマは「よみがえるか家庭」というものでした。

家庭の不和を抱えていたY氏は、講演会に参加しました。参考になることはいくつかありましたが、その中でも、『ありがとうの力』という話が印象に残りました。

家に帰ると、妻から「○○さんから電話があつた」とつつけん

んに言われました。いつもなら、「うん」や「ああ」と返すところ。Y氏は講演を思い出し、「ありがとう」と返事をしました。

食事の時も、「取り皿をくれるかい?」「はい」「ありがとう。」「お醤油とつて」「どうぞ」「ありがとう」と、必ず添えるようにしたY氏。たった一言ですが、この日から夫婦の関係に変化が生まれました。少しずつ夫婦の会話が増えてきたのです。

それまでは一方的な言葉の投げかけだったのが、「ありがとう」と受け止めることで、夫婦の心の距離が縮まったのかもしれない。次第に妻の表情が明るくなり、子供たちにも、笑顔が多くなってきました。

もしY氏が、講演の後、「今日は良い話を聞いたぞ。これから『ありがとう』と言えよ」と家族に押しつけていたら、どうなっていたでしょう。会話どころか、家庭の雰囲気はますます暗く、ギスギスしたものになっていたはず。良い話を聞いて、それを実際に

実践したところから、家族に変化が生まれました。そして、父親の言葉一つが、家族を大きく変えることに驚いたY氏でした。

Y氏が赴任した中学校の雰囲気も、薄皮をはがすように変化していきました。赴任当時は「どうしたら子供たちが変わるか」と考えていたY氏ですが、「まずわれわれ教師が変わらなければいけない」と、毎週、職員会議を開くようにしました。また、不登校の生徒の家には、Y氏自ら足を運んで声をかけるようにしました。

ほかの先生も、根気よく生徒の話を聞き、アドバイスを送るようになりしました。翌年、三年生全員が進学や就職を決めて、無事卒業式を迎えることができました。

言葉の力は存外に大きいものです。また、発する人の立場によって、その影響力は変わります。

特に家庭や職場で上の立場の人が発する言葉には、場を一変させるほどの力があります。プラスの言葉で、家庭や職場を明るくするようになりたいものです。